

10.九州（地域別調査機関：公益財団法人九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連  (九州)		-	-
		商店街（代表者）	・冬物商戦に入り、今年は早くから動きが良いので期待している。
		商店街（代表者）	・今月以上に喪中、年賀状などの印刷物が増えてくる。
		一般小売店〔青果〕（店長）	・需要が多くて値段が上がったのではなく、供給が少ないため値段が上がったという状況である。需要が伸び切っていないため、供給が満たされれば以前よりは良くなるが、大きな売上の伸びはない。
		一般小売店〔鮮魚〕（店員）	・年末に期待するしかない。年間の損を年末に取り戻すような商売だが、損を取り戻せるか不安である。
		一般小売店〔茶〕（販売・事務）	・今後3か月も必ず上昇していくという判断はできないが、例年どおりであれば年末に向けて販売量は増加していく。
		百貨店（営業担当）	・今後、米国の利上げの問題や大統領選挙等の外的要因による株価の影響も出てくると思われるが、足元は多少前倒しのお歳暮の動きがあり、極めて好調である。催事が活況となれば持ち直していく。
		百貨店（販売促進担当）	・年末年始に入り、今月よりはやや良くなる。
		スーパー（経営者）	・熊本地震後、初めての年末でそろえるものも多いため、良くなる。
		スーパー（店長）	・現在の野菜の高騰も安定していくだろう。冬になって寒くなるので季節商材が売れてくる。
		家電量販店（店員）	・売上は天候に左右されるが、ここ半年は上がり下がりがある中で若干上昇しつつある。3か月後も季節要因を外して考えると、良くなる。
		家電量販店（総務担当）	・話題になる商品が少なく、今後も買換え需要の掘り起こしに期待する。
		家電量販店（従業員）	・寒くなってきたので暖房器具の需要が増える。
		乗用車販売店（総務担当）	・年末には新型車が投入される。来店客数が増え、新車販売台数が伸びる。
		乗用車販売店（販売担当）	・上半期は順調に売上も伸びていたが、今月は来店数が落ち着いていた。これ以上の落ち込みはないため、2～3か月後は客足が戻る。
		その他専門店〔コーヒー豆〕（経営者）	・12月に向けて売上が上がる。コーヒーを中心としたお歳暮や、気候も寒くなるのでコーヒーを消費する家庭が増えてきており今後は良くなる。
		ドラッグストア（部長）	・冬の気温が平年並みか低いと予想されており、冬物の需要も高まることが期待できる。
		その他小売の動向を把握できる者〔土産卸売〕（従業員）	・年末年始で人の移動する時期になり販売量は増加する。客単価が高くなれば良い。
		高級レストラン（専務）	・宴会が多くなる時期で、南九州全般で客が増えている。ただ、市内の人の懐は豊かではない。
		高級レストラン（支配人）	・年末に向け、忘年会等の予約が少しずつ入り始めた。
	高級レストラン（従業員）	・忘年会シーズンで動きがある。	
	一般レストラン（経営者）	・集客数は増えてきているので、あとは注文の内容次第である。ただ、客からは景気のいい話は聞こえてこない。	
	都市型ホテル（販売担当）	・繁忙期ということもあり、1月までの予約数は前年を超えている。	
	旅行代理店（従業員）	・第4四半期は九州ふっこう割も終了し、九州域内では反動が懸念されるが、その反面学生旅行を中心に東京、京阪神方面への需要が増える。	
	タクシー運転手	・年末年始、ボーナス時期に入るので動きが出る。	
	通信会社（企画担当）	・客の相談内容から、年末、年度末に向けての駆け込み需要は例年よりも多くなる。熊本地震・九州ふっこう割などの対応でできなかった未公開の事業が出てきている。	
	観光名所	・宿泊施設が11月はほぼ満室なので個人客はもちろん、団体・ツアーも増えている。また夜神楽が始まるので景気はよくなる。	
	美容室（経営者）	・年末は景気が回復してきて当業界も元気になる。安きに流れる傾向にあるが、おしゃれをする人たちの世界では少しずつ良くなる。	
	その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕（管理担当）	・業界全体としては厳しい経営環境であるが、経営努力により損益が好転する企業もあり、二極化している。全体として前年度より好転する。	

商店街（代表者）	・熊本地震の復興で、一部の業者は良くなっているが、小売業の売上はそうでもない。今後も、上がる見通しはない。
商店街（代表者）	・現在の消費の冷え込みが回復する見込みは見当たらない。年金支給日だけ売上が上がり、ふだんは衝動買いを控え、売上は低調のまま推移している。日ごろから節約に徹した購買意欲の表れである。
商店街（代表者）	・収入が増えない上に、熊本地震後、鳥取県中部地震があり、このような天災の後には財布のひもが締まっていく。今後は、1人1人が潤うような政策がないと景気は良くならない。
商店街（代表者）	・客の年齢層が高くなっている。景気が良くなる兆しがない。小売店は必要ないのだろうか。各店舗の努力も必要だが、飲食店が増えている街中では足を運んでもらう魅力を総合的に作り出して行かなければならない。
商店街（代表者）	・九州ふっこう割が終わり、その後観光客がどれくらい戻ってくるのか分からない。商店街の個人消費が伸びない。
一般小売店〔生花〕（経営者）	・年末にかけては花の単価も高くなるので売上は少し厳しくなる。熊本地震後に地域復興ということで買いに来る客が増えているので期待したい。
百貨店（営業担当）	・高温多湿の気候により主力の衣料品の秋物への関心がなく、苦戦が続いている。一方、紳士・婦人雑貨やゴルフ用品、化粧品、ヤング衣類など自分で楽しむ商品は好調である。恒例の催事で金券利用は見込みめるが、客の買物二極化と慎重な買物傾向は継続する。
百貨店（営業担当）	・現状が高水準でこれ以上になることは想定しにくい。
百貨店（業務担当）	・客はいまだ震災の片付けや、耐久消費財の買換えを優先している。一般的な消費が復調するにはまだ時間がかかる。
百貨店（経営企画担当）	・価格志向の強まりにより、購買単価の減少傾向が続く。来客数も減少し、ますます厳しい商況となっている。人口の都市部集中、地方の少子・高齢化が進行するなかで、下げ止まりの兆候は見えてこず、非常に厳しい状況である。
百貨店（マネージャー）	・インバウンドの売上は、4月以降、良くて前年比80%台であったが、10月に入り今年度初めて90%台まで戻したが、一般商品については、相変わらず時計宝飾品等の高額品を中心に、回復の兆しが見られない。
百貨店（店舗事業計画部）	・クリスマスから年末年始にかけては百貨店の利用が最も多い時期なので秋に比べ安定するが、ファッション衣料・雑貨の苦戦が続く。
百貨店（売場担当）	・入店客数が前年比95%以下が続いており底上げが問題である。最近は食品以外で客単価が落ちている。前年はプレミアム付商品券があり売上が伸びたが、今年は期待できない。市況だけでみると良くないが、他店と比較してみないと現状の判断がしにくい。
百貨店（営業統括）	・主力である婦人服が売上増になるかどうか、現状では見通せない状況である。
スーパー（店長）	・消費が上向く根拠がない。競合店の出店や改装等もあり、今後価格競争も厳しくなる。
スーパー（店長）	・熊本地震の影響で大型店が閉まっており、ギフトの売上が夏場は前年比300%で推移した。年末商戦もそのようになる。大型店の復旧には半年以上掛かるので、それまでは変わらない状況が続く。年末商戦も早くから動き出すようなのでかなり期待できる。一方、衣料品が天候不順のため、苦戦している。
スーパー（総務担当）	・客数や売上が前年を上回って推移しているものの、客単価はあまり変化がない。
スーパー（経理担当）	・寒くなるにつれ夏場からの消費の改善は進む。
コンビニ（経営者）	・客の様子からは景気が良くなっているような動きはみられない。
コンビニ（店長）	・特に悪くなる要因も、良くなる要因もない。
コンビニ（エリア担当・店長）	・近くに生鮮品を扱う中規模スーパーマーケットが開店する予定である。その影響は見当もつかない。客の流れが活発になるとコンビニエンストアへ来店もあるが、どれだけ取り込めるかが課題である。
衣料品専門店（店長）	・いろいろな催事を打つものの客足は遠のき、戻る気配がない。
衣料品専門店（店長）	・景気は良くも悪くもない。
衣料品専門店（総務担当）	・現状から変わる様子がない。

衣料品専門店（取締役）	・衣料品に対するお金のかけ方が以前よりもシビアになってきている。持っている物で済ませる、できるだけ安いものを買う、そういう感覚の客が多く、とても豊かで満足のいく余裕のある生活ではない。
家電量販店（店員）	・良くなる要素も悪くなる要素もみられない。このまま変わらない。
乗用車販売店（代表）	・変わらない。
住関連専門店（経営者）	・個人用住宅の建設はあるが、置き家具の買換え需要は減少している。相変わらず厳しい状況が続く。
その他専門店〔書籍〕（副店長）	・年末で売上額は大きくなるが、前年ベースでの改善は難しい。
その他専門店〔ガソリンスタンド〕（統括）	・燃料油の小売価格はやや上昇傾向だが、これからは寒くなり灯油の小売販売が見込みめる。例年以上に寒くなり、燃料油全般の販売量の増加に期待したい。
その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（支配人）	・緩やかな伸長傾向にあるが、今後2～3か月先については競合する店舗による影響もあり、見通しが不鮮明である。
その他小売〔ショッピングセンター〕（広報担当）	・11月中旬まで高温傾向が続くという予想で、冬物の動きを懸念している。建値で販売できる期間が短くなるのは必至である。
その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（統括者）	・インバウンドの状況は変わらない。衣料品の動向も電子商取引増加もあり、急激には回復しない。
都市型ホテル（スタッフ）	・良くなる施策や対策が期待できない。
都市型ホテル（副支配人）	・当地区は来春まで、イベントが毎週末、コンサートが平日に予定されており、すべて予約が入っている。更にインバウンドが戻っている。
旅行代理店（企画）	・市場動向を確認中である。
タクシー運転手	・ゴルフが増えてきているが今年あまり期待できない。
タクシー運転手	・相変わらず続く野菜の高騰や石油の値上がり予想など、財布のひもを締める不安要素はあるが、当分当地のタクシー利用は堅調である。
通信会社（営業担当）	・海外からの観光客数が減少傾向にある。
ゴルフ場（従業員）	・年末に向けての予約は前年並みである。九州ふっこう割等を利用した客は微増である。観光地としての地場産業はあまり元気ではないため、景気が上向く材料もなく、年末までこの状況が続く。
競輪場（職員）	・前年同月比でマイナスの状況で安定している。
競馬場（職員）	・前年から販売量が好調に推移しており、今後も特段傾向が変わる要素が見当たらない。
理容室（経営者）	・12月中旬を過ぎないと客の動きが出てこない。10～11月は厳しい状態である。
美容室（店長）	・客単価が少し上向いてきたが更に良くなることはなく、変わらない。
設計事務所（所長）	・いつもと変わらない状況であるため、結果が出るこの先も変わらない。
設計事務所（代表）	・良くなる材料も悪くなる材料もない。
住宅販売会社（従業員）	・住宅ローンの金利上昇もあるが、補正予算で新たな補助金が決定し、今年度は現状維持が続く。
住宅販売会社（従業員）	・景気のよし悪しの指標が最近分りにくくなっている。消費動向や貯蓄率等、物は売れるが原価率が悪いなど、景気としてはあまり良くない。
スーパー（店長）	・客や商品の動向を見ても変わらない。
スーパー（店長）	・低価格への傾向が強くなってきている。単価の下落がより一層明確になる。
コンビニ（エリア担当）	・光熱費等の公共料金も増え、人件費増も重なり経費を押し上げており、収益の悪化が一段と深まる。
衣料品専門店（店員）	・10月末でこれほど暖かいと、コート等の重衣料を定価で購入せずセールを待つ客が増える。最近は厚いコートは着ないと言う客の声もよく聞く。
その他専門店〔書籍〕（代表）	・若い世代が本当に使える金がないことを実感している。生活に関する経費は年々上がっているが、年金が破綻しつつあるなどネガティブな様子が満載である。
スナック（経営者）	・例年9月は春以降来客数が最も少なく10月は回復するのだが、今年はその傾向が見られず9月と同様の成績である。近隣の同業者も同じ傾向らしく景気の後退を感じる。

	観光ホテル（総務）	・熊本地震後、回復傾向の要因として挙げられる九州ふっこう割が12月には終了する。それ以降について、厳しい状況になる。
	タクシー運転手	・会社も驚くほど予約率が高く、売上也今年で最も良いが今後の見通しが立っていないので不安がある。
	通信会社（業務担当）	・下請をやっているが、数か月単位でインセンティブが少しずつ下落している。
	通信会社（営業）	・10月の販売量が振るわなかった。それが年末年始まで続く。
	音楽教室（管理担当）	・生徒が受験時期になり稽古ごとを控えている。
	x 商店街（代表者）	・来客数の減少とともに、消費者の財布と懐は非常に固くなっている。
	x 高級レストラン（経営者）	・10月よりは良くなるが、例年に比べると予約状況も非常に悪い。12月の週末は大きな宴会が入っているが、それ以外の平日はまだ動きが鈍い。熊本地震後、隣市は補助が出て宿泊客を多く誘致している。当市にも何かあれば良い。
企業 動向 関連  (九州)	-	-
	農林水産業（従業者）	・出荷量が伸びるので、景気は良くなり農家に金が回り始める予定だが、九州各地のピークと重なり、また今月の市況高止まりの影響もあり、一気に値崩れが起きる可能性を秘めている。
	農林水産業（営業）	・特需期になるので上向きになる。
	出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・主に自治体での防災に対する意識が高まっており、需要が生まれている。
	金属製品製造業（事業統括）	・具体的に東京オリンピック関連案件の動きが出始めた。
	電気機械器具製造業（経営者）	・現在の受注量が続くとしばらくは良い状態が続く。この先半年くらいは大丈夫という楽観的な見方ができる。
	電気機械器具製造業（取締役）	・業種によって大きなばらつきがある。自分達の得意分野からそれに関連のある事業にチャレンジすることで活路を開いていくことが重要である。
	輸送用機械器具製造業（営業担当）	・年末までは輸出車両生産が好調のため、計画台数より増産が見込みめる。
	建設業（従業員）	・見積案件も大型物件がいくつかあり、その1つを受注した。工期も短く今期の売上になり、収益でも貢献できるので景気は良くなる。
	通信業（経理担当）	・下半期が開始する10月より年度末の受注計画に向けて、予定どおり動きが活発化する。
	金融業（従業員）	・熊本地震の影響が薄らぎ、住宅投資や公共工事が持ち直してきている。雇用面では、時間外勤務が増加しており求人数も増加している。
	金融業（調査担当）	・熊本地震による影響は払拭された。復興需要も本格化し、当地の企業にもプラスの影響がみられる。
	金融業（営業）	・世界的な需要減は底を脱した感があり、先の受注も少しずつ出てきている。年内には来年前半の受注を一定水準確保できる。
	不動産業（従業員）	・ホテル部門の稼働率が好調に推移しており今後も継続する。
	経営コンサルタント（代表取締役）	・グループ補助金の影響により建築関連が非常に良い。まだ補助金がおりにおらず、実際に降りると工事が始まりだして一気に景気は良くなる。建築を中心に全般的に景気が上向いてくる。
	その他サービス業〔物産リース〕（支社長）	・業績も比較的安定推移している客先が多く、冬季賞与もあるので、身近な景気は良い。大手鉄道会社株式を買い付けた人や、事業を売却し創業者利益を得た人、株で利益を得た人など、景気が良い人が数人いる。
	農林水産業（経営者）	・11月は鶏肉の入荷が少なく工場稼働にも少し影響が出る。しかしスーパーマーケットや居酒屋向けに関しては季節感も出てきたため期待できる。
	食料品製造業（経営者）	・今後の受注も期待できる。
	繊維工業（営業担当）	・社員を募集しても人が集まらない。賃金は上昇し、対応策がなかなか難しい。
	家具製造業（従業員）	・全体的には家具業界のホテル家具を生産しているメーカーは増収傾向だが、そうでないメーカーは前年とあまり変わらない。
化学工業（総務担当）	・現状の需要が継続する見込みである。	
窯業・土石製品製造業（経営者）	・受注も売上也従来どおりであるが、ガスや石油が上がるとマイナスになるので危惧している。	

	一般機械器具製造業 (経営者)	・棚上げとなった引き合い物件が浮上することを待っているがその兆しが不明であり、他方面への営業活動を行っていききたい。	
	一般機械器具製造業 (経営者)	・今月の状況がやや上向いており今の状況が続く。	
	精密機械器具製造業 (従業員)	・先が見えない中、受注先からの要求に変化があり、先行きの計画が定まらない状況にある。	
	その他製造業(産業廃 物処理業)	・現状変わらず伸びの材料が見当たらない。中国、韓国、日本共に半導体関連の落ち込む状況が続いている。	
	建設業(経営者)	・見積件数が変わっていないため、この先も同じような状況が続く。	
	建設業(社員)	・官公庁の第3～4四半期の発注はピークを過ぎ減少するので、今のうちに受注したい業者は多い。とりあえずは年度未までを乗り切る。	
	輸送業(従業員)	・倉庫に荷物を入れると保管料がかかるため、商品が海外から入るとすぐ問屋に売り渡しをするなど、各社できるだけコストがかからないようにしている。	
	通信業(職員)	・来年度に向けて受注量アップの兆しは見えてきているが、2～3か月で大きな変化はない。	
	金融業(得意先担当)	・景況感は現状程度を維持する。年末にかけて資金需要が活発化するが、企業の資金調達に関する動向を注視したい。	
	金融業(営業担当)	・消費者に関わる物販について、年末にかけて大きな経済対策等は見られず、景気の改善は見込みめない。	
	新聞社[広告](担当 者)	・東京オリンピックや選挙等があったにもかかわらず、上期は前年をわずかに下回った。下期で回復する見込みもなく、当面は現状維持から微減を繰り返していく。	
	広告代理店(従業員)	・10月の新聞折込枚数は前年同月比92%となった。この6か月間、前年同月比でほぼ10ポイントのマイナス状態が続いている。9月の中間決算は好不調の業種に大きく分かれた。折込業界では個人の消費動向が大きく作用する。消費が活発になれば企業は販売促進経費を削減し、当業界は停滞する。悪いまましばらく続く。	
	経営コンサルタント	・年末に向けて各社とも現業に集中し、新しい企画を手掛ける場所は少ない。	
	経営コンサルタント (社員)	・低価格帯の酒は売れているが高価格帯の酒が売れていない。	
	経営コンサルタント (代表取締役)	・取引先の設備投資計画や採用計画について、大きな変化がない。	
	鉄鋼業(経営者)	・販売量はこれまでの受注量の増加に伴い好調だが、新規受注は減少している。このため年末にかけての販売量は減少する。受注物件を分析すると分譲マンションが少なくなっており、需要の減少が気掛かりである。	
	輸送業(総務担当)	・最低賃金上昇に加え、労働力人口が減り、ますますパートタイマーの雇用環境が厳しくなっている。生産性を上げるための設備投資にも限界があり、今後も最低限確保すべき人員数は変わらないものの、人件費のみが上昇している。価格転嫁するにも、デフレの状況は変わらず、適正価格への値上げは難しい。利益を圧迫される厳しい状況である。	
	金融業(従業員)	・家計は収入が伸びず財布のひもが固くなり、その影響で小売は年末商戦も伸びず、景気は悪くなる一方である。	
	x	その他サービス業[設計事務所](代表取締役)	・今年度も残り5か月となり、9月の補正予算を見ても、市町村からの発注も残り少なくなっていることから、今後、調査や計画、設計などの発注が見込みめない。このため、新規案件を受注する機会が少なくなり、景気が悪くなる。
雇用 関連	-	-	
(九州)	人材派遣会社(社員)	・年末、年度末に向けて、さらに求人数は増加する。	
	人材派遣会社(社員)	・年末が近づき、更に売り手市場になる。	
	新聞社[求人広告] (担当者)	・熊本地震から半年が経過し、解体・整地等が進んできたため、これから住宅の着工が本格化してくる。中小企業の持続化補助金も12月までの執行であり、広告等も活発化する。	
	職業安定所(職員)	・熊本地震後の復旧で、建物の解体作業が進み建築段階に移行しており、関連業種に好影響が出る。	
	民間職業紹介機関(社員)	・年末年始、年度末向けの依頼がある。	
	人材派遣会社(社員)	・派遣の依頼内容では社員の育児休暇の補充が多く、長期的な派遣の展望が見込まれない。	
	人材派遣会社(社員)	・お歳暮の受付や入力の仕事は、前年と同じくらいの求人数になっており、新規での依頼はない。新規増員よりも欠員での求人が多い。	

	求人情報誌製作会社 (編集者)	・11～12月は年末の繁忙期の求人になるが、待遇面で競争力のない地場企業はますます人材確保が困難になる。
	職業安定所(所長)	・求職者が減り、新規求人が増える傾向は当面変わらない。
	職業安定所(職員)	・新規求人数が過去最高となっており、これを更新し続けることはない。
	職業安定所(職業紹介)	・全体的に有効求人倍率が今後も高い水準で推移する。新規高卒求人数も増加している。
	民間職業紹介機関(支店長)	・求人数の伸び悩み、求職者・登録数の減少により売上が伸びない。一方で会社固定費が増大しており、収益を圧迫している。当分はこの傾向が続きそうである。
	学校[専門学校](就職担当)	・海外情勢によって変わってくる。
	学校[大学](就職支援業務)	・景気そのものと現在の求人数が直接関係があるとは明言できない。
	新聞社[求人広告](担当者)	・熊本地震の影響もあるが、外国人観光客の消費額が落ちている。百貨店や流通業の売上減が目立ってきた。
x	-	-